

No.189

# 林業ぐんま

県産材を用いた大型木造建築物



沼田利根医師会地域医療センター

沼田市立沼田中学校

普及コーナー 1  
 県産材の公共施設増加 1  
 林政情報 2  
 林地開発許可の推移 2  
 流通食品の安全安心講習会 2  
 「2014」 3  
 21世紀の森フェスティバル」開催 3  
 各地のたより 3  
 (利根沼田) 「環境と森と木のまつり」 5  
 (桐生) 邑楽町立長柄幼稚園 5  
 (渋川) 赤城ふれあいの森まつりに 5  
 おける渋川地区林業振興協会の活動 5  
 (西) 部 木・竹酢液採取講習会 5  
 (藤岡) 世界伐木チャンピオンシップ 5  
 に本県から初出場 5  
 おしらせ 8  
 「森林国営保険」が 8  
 「森林保険」に変わります 8  
 森の談話室 9  
 伊香保温泉と治山事業 9  
 渋川広域森林組合長 田中昌嘉さん 9  
 地域を担う人 10  
 反町 昂道さん 千葉 荘一郎さん 10  
 上岡潤一 郎さん 西台 雄さん 10  
 林 直幸さん 水出 力さん 10  
 高沢 晟那さん 久保 浩平さん 10  
 林業試験場から 13  
 里山を活用したきのこ栽培技術の確立 13  
 トピックス 14  
 平成26年度教育情報講習会を開催 14  
 森林・林業を支え、みどり豊かな 14  
 郷土群馬づくりに貢献する 15

# 秋

2014

群馬県林業改良普及協会



楽しく・快適・生活環境

## 株式会社 岡田工務店

代表取締役 岡田 守

〒370-3107 群馬県高崎市箕郷町矢原987  
TEL. (027) 371-2364 FAX. (027) 371-5627



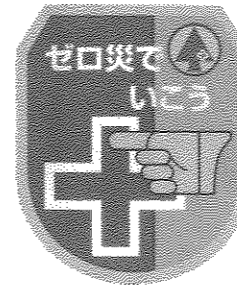
手の届くところに 大自然のかおろを

## 株式会社 アイビック

代表取締役 加藤 勝弘

本 社 富岡市下高瀬534  
☎: 0274-63-1124 FAX: 0274-63-0176  
東京本社 東京都足立区舎人5丁目18番25号  
☎: 03-3899-2886 FAX: 03-3855-5625

### 危険予知 目配り気配り ゼロ災害



林業・木材製造業労働災害防止協会群馬県支部

〒 379-2131 前橋市西善町 524-1

電話: 027-266-8220

<http://gunma-wood.com>



## 緑の募金で 緑豊かな ふるさと ぐんま

公益社団法人 群馬県緑化推進委員会

前橋市大手町1-10-7 群馬県公社総合ビル内  
☎ 027(280)6257  
URL: <http://www.g-sinrin.jp/>

発行責任者 星野 巳喜雄  
印刷 杉浦印刷株式会社

平成二十六年十月一日 発行

ひとりとごと 夏の恐ろしい暑さ、各地での豪雨による災害など極端な気象が続いています。これも地球温暖化の影響なのでしょうか。猛暑の最中でも深い森林に立ち入ると別天地のような快適さです。盛夏に自転車で赤城山を下ると両側の樹林が切れると急に生暖かい空気に替わります。森林のありがたさを感じます。(K・A)

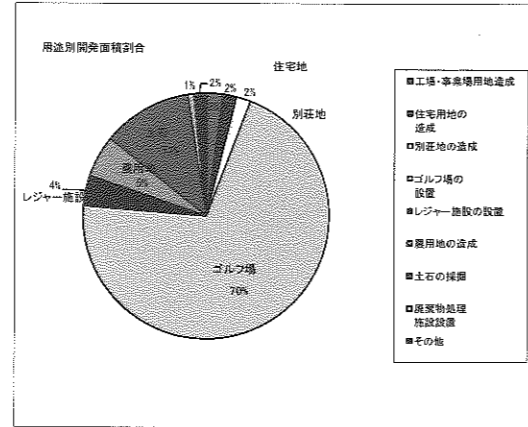
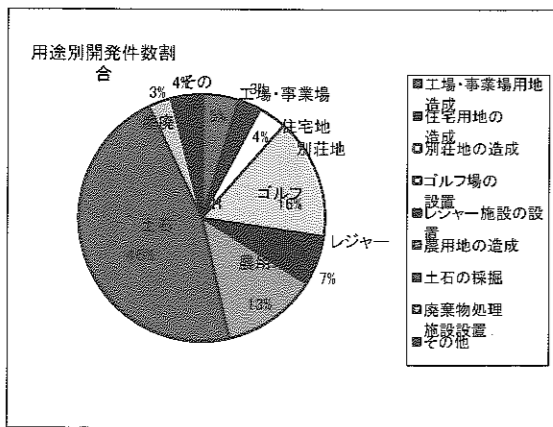
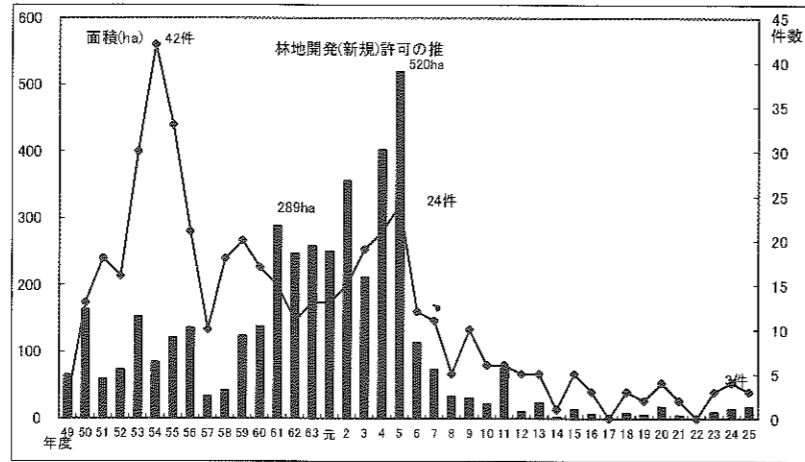
# 林政情報

## 林地開発許可の推移

本県の林地開発は、制度創設の昭和49年度から平成25年度までの40年間で総件数461件、開発面積4,217ヘクタールであり、昭和54年度の42件をピークに昭和60年代前半までは減少傾向となるが、その後のバブル経済期のリゾート開発ブームに伴って、ゴルフ場などの大規模な開発が増加しました。

平成5年度以降は、バブル経済の崩壊とともに急激に減少し、平成10年度は6件、22ヘクタールとピーク時のわずか4%に減少、その後も景気の低迷から年2～4件、10ヘクタール前後で推移していましたが、平成24年度以降は、電力の固定価格買取制度の導入により太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギー発電施設設置に関する相談や申請が増加傾向にあります。

用途別の開発面積では、ゴルフ場が2,972ヘクタールで、全体の70%と大部分を占め、続いて土石採取498ヘクタールであり、件数では土石採取が214件で全体の46%、ゴルフ場が73件16%となっています。



林地開発許可制度は、森林の無秩序な開発を防止して森林の適切な利用を確保することを目的に昭和49年の森林法改正により創設されました。

本制度では、一定の規模を超える保安林以外の森林で開発行為を行う場合には都道府県知事の許可を必要とするものとし、一定の基準を設けて、森林の有する公益的役割を阻害しないよう開発の適正化を図ることとしています。(森林保全課)

# 普及コーナー

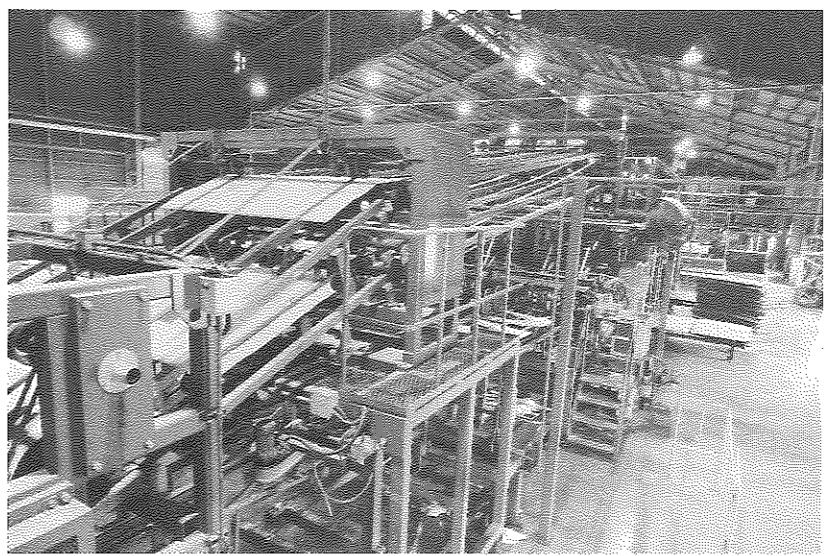
## 県産材の公共施設増加

群馬県の木を使った木造公共施設が増えて  
います。

沼田市では沼田市立沼田中学校と沼田利根  
医師会地域医療センターが地元利根沼田地域  
のスギやカラマツなどの木材を使って建築さ  
れています。



山から伐採された丸太は用途によって、各  
工場に運び込まれて製品に加工され、地元の  
中学校や医療センターの建築に使用されまし  
た。  
使用された合板を例に取ると利根沼田地域  
の山から伐採された丸太は、トラックで千葉  
県の本更津の工場に運ばれます。丸太はか  
つらむきにされて、薄い板に加工され、乾燥



した後、数枚を接着剤で張り合わせて合板が  
出来上がりました。そして、合板はトラック  
で、沼田市の現場に運ばれて、屋根の野地板  
等に使われました。  
今後も県産材の木造公共施設が増えるよう  
に取り組みます。

(林業振興課)



## 流通食品の安全安心講習会 放射線物質汚染のない農林 水産物を販売するために

林業振興課きのこ普及室

福島原発事故から3年以上が経過しましたが、野生のきのこ類及び野生の山菜類は、未だに放射性物質の影響を受け続けています。そのため、農産物直売所において、食品基準値（100ベクレル/kg）を超過した野生のきのこ類及び野生の山菜類が販売された事例がいくつかみられました。

そこで、衛生食品課（食品安全局）、技術支援課（農政部）と共同で、9月8日と9日の2日間にわたり、農産物直売所の販売責任者を対象として、県庁昭和庁舎会議室で講習会を開催しました。

これまでも、野生の特用林産物の出荷者、販売者、市場関係者には、出荷前検査を必ず受けるよう文書等で周知徹底してきましたが、今回は販売者である農産物直売所の責任者に対し直接、行政各部門が一体となって説明し、質疑に答えることで、注意喚起がより徹底されました。

現在、野生きのこ採取のシーズンですが、県内では7市町村（沼田市、嬭恋村、東吾妻町、高山村、安中市、長野原町、みなかみ町）

で出荷制限となっています。また、隣県の状況は、栃木県ではほとんどの市町村で出荷制限となっているほか、長野県、新潟県、埼玉県においても出荷が自粛されている地域があります。

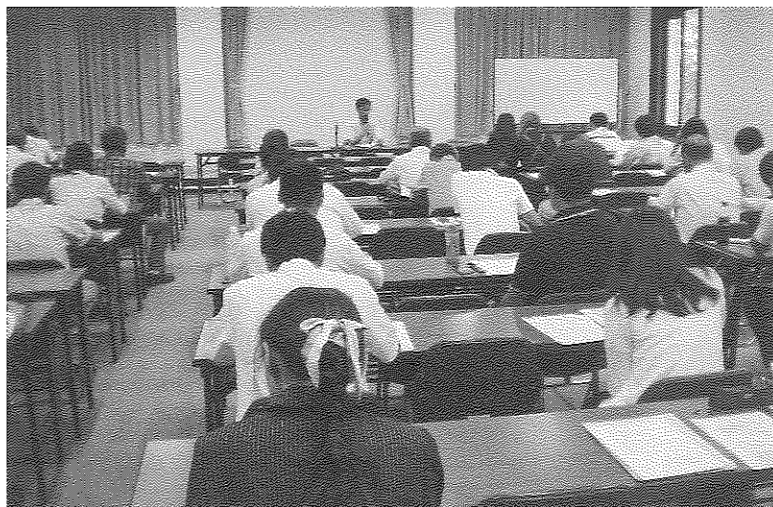
出荷が自粛されている地域の野生きのこは当然販売できませんが、それ以外の地域で採取された野生きのこも販売する際には、必ず検査を受けて、安全を確認しなければなりません。



また、野生のきのこの採取にあたっては、採取地の土地所有者の了解を得ることが必要です。

今後も庁内他部局と協力しながら、安全な野生の特用林産物の出荷流通に努めていきます。

（林業振興課きのこ普及室）



講習会の様子

## 「2014 21世紀の森 フェスティバル」開催

八月二十四日（日）、沼田市と川場村にまたがる県立森林公園「21世紀の森」の森の広場に県内外から三千人が集まり、自然の中で音楽を楽しみました。

「21世紀の森フェスティバル」の前身である「野外音楽祭」は、平成十年五月に開催された第49回全国植樹祭の精神を後世に伝えるため、全国植樹祭の翌年から、毎年開催されてきました。

平成二十二年に開催した「第34回全国育樹祭」や「ぐんま山の日」の制定を契機に、これまでの「野外音楽祭」の精神に加えて、「流域で暮らす人たちが森林に触れ、その役割や森林整備の大切さを知り、未来へ引き継いでいくこと」を地域が一丸となって伝えていくため「21世紀の森フェスティバル」として生まれ変わりました。

このフェスティバルは、主催者である「21世紀の森フェスティバル実行委員会（委員長 沼田市長 横山公一）」と、多くのボランティアの協力に支えられ、開催されました。

かわば・春駒チェリースのオープニングアクトにより、フェスティバルは幕開けとなりました。



第一部では、生越太鼓、コールちぐさ、KMC、かわば・春駒チェリース、MNFのすばらしい音楽と、ご当地アイドルのあかぎ団たちの若さ溢れる歌声が会場を包み込みました。

あかぎ団の皆さんによる環境メッセージと緑の募金のお願いに会場内をめぐる「憩いのひととき」により一部は終了しました。

千華さんの歌、主催者あいさつなどのメイシレモノ終了後、午後二時二十五分から第二部がはじまりました。

第二部は井上昌己さん、なつこさんの歌声



で始まり、松崎しげるさんによる、皆さんご存知の「愛のメモリー」など迫力ある歌声に、会場も一体となって盛り上がり、大成功の中でフェスティバルは幕を閉じました。

同時開催の「環境と森と木のまつり」では、木製品の展示・即売、木工工作などに賑わいを見せました。

また、県民ボランティアやあかぎ団による会場周辺の草刈りや清掃等のクリーン大作戦が行われました。

（緑化推進課）

# 各地の便り

## 「環境と森と木のまつり」を開催 みんなどきろうぐんぐまの森林

八月二十四日、沼田市と川場村にまたがる県立森林公園「21世紀の森」の芝生広場で、21世紀の森フェスティバルとの同時開催イベントとして「環境と森と木のまつり」(主催 環境と森と木のまつり実行委員会)が開催されました。

当日午前の天候は真夏の太陽が輝いており、今日一日、相当暑くなるのを覚悟しておりましたが、午後になると時折小雨がぱらつくことがありましたが、凌ぎやすい日となりました。

21世紀の森フェスティバルで歌手の松崎しげるさんなどが出演するほか、参加者多数となりました。

環境と森と木のまつりの会場では、木製プレートやぐんまちゃん



木製プレートにお絵かき中

や絵を描いたり、しおり作り体験が行われ、終日、特に子供達の人気を呼び、熱心に参加し、木製品とふれあい、木の良さを実感していただきました。

環境のコーナーではミニ浄化槽の展示・実演を行うとともにパネル展示や、その解説を行い、地球環境の重要性を多数の方にアピールしました。

21世紀の森の中では、「クリーン大作戦」と銘打ってご当地アイドルの「あかぎ団」と「森林ボランティア」による下草刈りが行われ、草刈り後は、よりすがすがしい森に変身しておりました。

「緑の募金活動」も会場入口及フェスティバル会場において「あかぎ団」の協力のもと行い、多数の方々から善意ある募金を頂きましたので有効に活用させていただきます。



あかぎ団による緑の募金

(利根沼田環境森林事務所通信員)

## 邑楽町立長柄幼稚園

長柄幼稚園は老朽化したため新しい園舎に建て替えられました。

邑楽町では「邑楽町公共建築物における県産木材利用の促進に関する方針」を定めており、町内で施工される公共建築物、工作物、土木構造物を対象として、県産木材の利用を推進するとしています。この方針に則り、柱・束をカラマツ、筋かいをカラマツ集成材、梁・母屋をカラマツ集成材、間柱をスギとしています。



建設工事は、平成25年10月17日に着工し、本年6月30日に完成しました。7月31日には竣工式が行われ、夏休みを利用して引越が行われました。2学期からは新しい園舎で園児たちが楽しい幼稚園生活を送っています。

# 各地の便り

本園は、木造公共施設の整備として「群馬県林業・木材産業再生緊急対策事業補助金」を受けています。さらに途中で「地域の元気交付金」の補助を受けることができました。邑楽町には町立の幼稚園が本園を入れて3園あります。平成26年度事業として1園を長柄幼稚園と同様に県産木材を利用して建て替えています。



施設概要：木造平屋建て 床面積：1,213.87㎡  
事業費：360,358,200円 (建築費：343,117,800円)  
(施設設備費：1,490,400円)  
(設計監理費：15,750,000円)

(桐生森林事務所通信員)

## 赤城ふれあいの森まつりにおける 渋川地区林業振興協会の活動

平成二十六年八月九日(土)に、前橋市富士見町の赤城ふれあいの森で、恒例の赤城ふれあいの森まつりが行われました。

当日は各種関連団体が多数出展し、木工教室や木製品・きのこの販売などが行われ、家族連れなどで賑わいました。

このまつりの中で、渋川地区林業振興協会は、丸太切り体験と森のクイズを実施しました。丸太切り体験は、平らに置かれた丸太を両引のこぎりを使って、二人一組みで息を合



丸太切り体験の様子



森のクイズ実施中

わせて切るもので、大変盛り上がりしました。なお、今回使用された、両引きのこぎりは、赤城南麓森林組合が旧富士見村から引継いだもので、現在は製造されておらず貴重なものだそうです。

一方、森の散策を兼ねた「森のクイズ」では、ふれあいの森内の樹木名などを題材に実施し、全問正解者には「緑の手帳」がプレゼントされました。

当日は台風接近で天候が危ぶまれましたが、どうにか一日も持ちました。来年はよい天気でありますように！

(渋川森林事務所通信員)

# 各地の便り

## 木・竹酢液採取講習会

高崎市吉井町で、「高崎地区木炭組合」と「よい奥平炭焼倶楽部」の共催で、木・竹酢液採取講習会が開催されました。

開催場所の旧吉井町奥平地区は、観音山ファミリアパークに近い、観音山丘陵南西に位置し、里山・平地林としての利用しやすい場所です。近年、放置竹林等から荒廃森林が広がり、地元の美しい景観を守るため、「よい奥平炭焼倶楽部」が結成され、その整備による伐木竹で炭焼が行われています。今回は、その部員を中心に41名が参加しました。

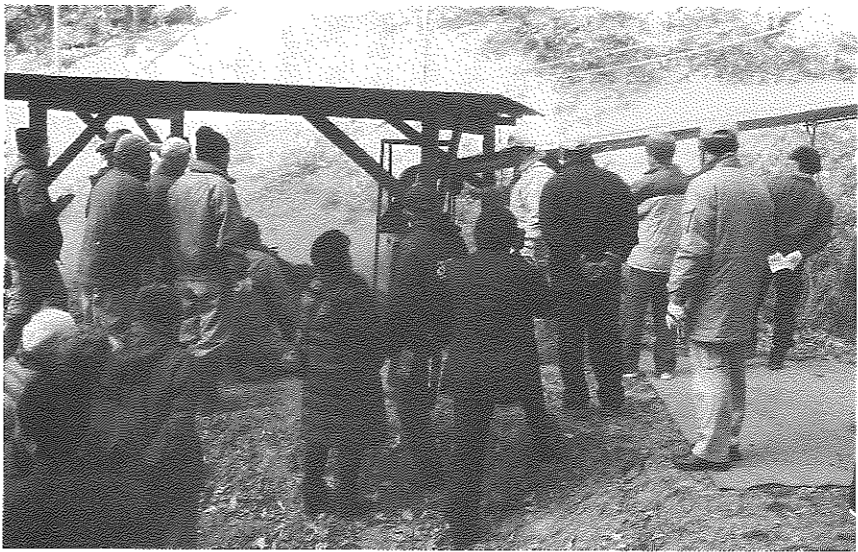
まず、講師から木・竹酢液の効用を活用した野菜栽培についての話があった後、火入れを始めた炭窯の上に、参加者全員で木酢液採取装置の組み立てを行いました。

講師の指導の下、ステンレス製の煙突、炭窯から出る煙を受ける笠部の取り付け等を順番に行いましたが、煙突の勾配や長さ、笠部と煙突をつなぐ接続部分の長さなど、良質の木酢液を効率よく採取するための技術に、受講者も大いに参考になった様子でした。

その後、参加者は近くの公民館に移動して昼食と休憩をとり、午後は木・竹酢液採取技術の説明と木・竹酢液の使用例等の講義がありました。受講者は、昼食後の眠くなる時間

にもかかわらず真剣に聞き入って、質疑応答の時間では、木酢液の成分や利用方法についての質問等が出て、関心の高さを示していました。ぐんま緑の県民基金事業の森林整備の地域活動支援もスタートし、木・竹酢液採取が伐採木竹の活用方法の一つとして、地域振興にもつながることを期待したいと思います。

(西部環境森林事務所通信員)



## 世界伐木チャンピオンシップに本県から初出場

9月10日から13日にかけて、スイスにおいて第31回世界伐木チャンピオンシップ(WLC)が開催されました。WLCは、林業技術及び安全作業の向上、並びに林業の仕事の広く一般に広め、林業の社会的地位向上を図ることを目的としており、40年以上の歴史がある林業技術大会です。

この大会に、本県から初めて、多野東部森林組合従業員の今井陽樹さんが出場しました。今井さんは、5月に青森県で行われた、第1回日本伐木チャンピオンシップにおいて、総合2位という輝かしい成績を収め、WLC出場の名誉を得ました。28歳と若く、林業に従事して5年目での快挙です。弛まな



ソーチェン着脱競技の様子

## お知らせ

### 平成27年4月1日から「森林国営保険」は「森林保険」に名称が変わります

森林国営保険法等の一部を改正する法律が平成26年4月16日に公布され、これまで国が実施してきた「森林国営保険」は、平成27年4月1日に独立行政法人森林総合研究所に移管されることとなり、名称が「森林保険」に変わります。

「森林保険」はこれまで同様、台風、豪雪、山火事などの災害による損害に森林所有者自らが備える唯一のセーフティネットであり、法律に基づく国の関与のもとで運営される公的保険です。移管後も引き続き「森林保険」にご加入くださいますようお願い申し上げます。また、今回の移管に際して、ご加入者様において特段のお手続きは不要です。

なお、事務移管作業の都合により、平成27年3月中旬～4月上旬頃にかけて、新規加入・契約更新等の諸手続の受付ができない期間が発生します。平成27年3月～4月を始期とする新規加入・契約更新等をご検討の場合、お早めにお近くの森林組合までご相談ください。

その他ご不明な点については、県林政課・県森林組合連合会にお問い合わせください。

群馬県林政課 森林整備係

電話 027-226-3221(直通)

県森林組合連合会 指導課

電話 027-261-0615(代表)

「森林国営保険」無くなっちゃうの?!

名前は「森林保険」に変わりますが、ご契約はそのまま引き継がれ、特別な手続きも不要です!ご契約の補償内容にも変更ありません!

お取扱い窓口も、これまでと同じ森林組合です。台風・豪雪・山火事・干水害...森林災害に備えて、これからは森林保険に加入しましょう!



丸太合わせ輪切り競技の様子

(藤岡森林事務所通信員)

## 伊香保温泉と治山事業

渋川広域森林組合長 田中昌嘉さん

昭和二十二年九月（一九四七年）キャスリン台風が群馬県を襲った。伊香保温泉は大水害と山崩れが起こり、死者十名、家屋流失九戸、町内の田畑の流失や土砂流入堆積と町道県道の橋の流失があり、町が孤立してしまつた大災害を受け復旧復興に永い歳月を要した記憶を持っている。……自然界の営みの中で人々が安全で安心をもつて、豊かな生活を送るには山林（森林）の持つ役割は大きく悪戯に水源地域を開発し森を伐採することは好ましくないと考えています。

森林の緑の貯水量は一ヘクタール当たり約七、〇〇〇トンと言われ緑のダムであります。また、森林は空気の浄化や酸素の供給で人々の健康増進等、人間の日常生活に潤いと豊かさをもたらし限りない恩恵を与え、改めてその重要性を見直すことが肝要と思慮されます。

伊香保温泉は、温泉涌出量を確保するため六箇所のボーリングを実施し、更に森林の保全と水源涵養林の育成が最も大切であること、そして現在の温泉源及び水源を確保するには山林の面積は二ツ岳周辺概ね七〇〇ヘク

定と写真を撮ることでした作業を一箇所ごとに進める中、温泉源泉地は谷間が深く電波が届かない場所が多くあり少々移動してやると受信が出来たことや谷が深く急傾斜で地面が滑り易く移動に苦労しました、急峻で山崩れで埋まった場所電波が谷に遮られた箇所、そうした難所の連続を何とか日程をこなして調査を進行してきました。

そして最後を迎えた調査箇所は水沢地区の船尾の滝の少々下流にある一名悪沢、滝沢ともいう沢へ入り空石でセメントを使っていない巨石を積み上げた堰堤を三箇所見て驚きました。

明治十四年明治政府の招きで、日本の治山工事を指導したオランダ人技師「デレーケ氏」が築いた堰堤であること、上毛新聞の記事で判明、Y技師が話してくれました。

治山工事とは言え一〇〇年以上経た現在も現役でその姿を（役目を果たして）現していることに感激した次第であります。治山工事が県の話では八〇〇箇所位伊香保町に施工してあると当初の話でしたが実際は八五〇箇所調査の結果ありました。

また、調査不可能の箇所もあつてもっと日数を掛けて行えば一〇〇〇箇所位はあるのではと推測をした次第です、伊香保温泉にとつて治山工事は、極めて重要な工事であることを再認識致した次第です。

タールは必要と考えられる。しかし、現状は保水保全面積は約六〇〇ヘクタール程度であり、一〇〇ヘクタール不足している。

その分治山工事（堰堤工事、山崩崩壊防止工事）によって保水力を維持しているものと想像される。特に伊香保温泉は榛名山の一角、観光地として観光客の安全を保障する見地から治山工事は重要性を増している。

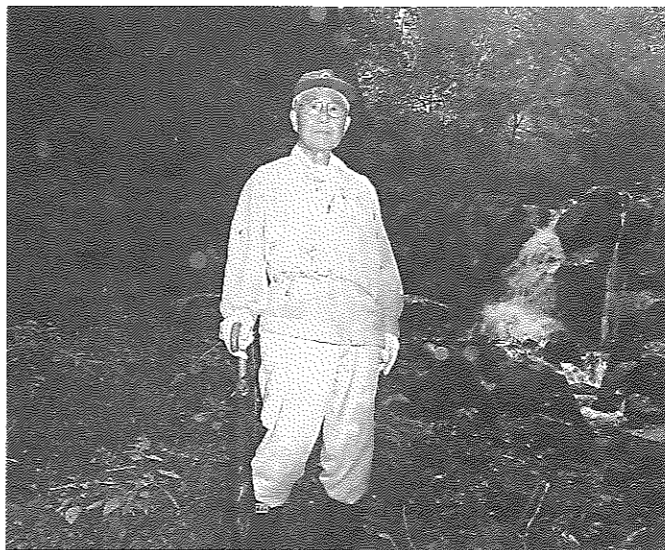
そして、この治山工事は、国や県が観光地の為に優先して施工しているものと常々感謝している次第であります。また、町民もこの恩恵を享受しておりピリアルして陰の施策を深く認識してもらうことも大切であると考えます。

前置きが長くなりましたが、私は役場吏員として三十五年間奉職しました。平成元年に退職し、家業の農林業に戻つておりましたところ、平成五年二月初旬、群馬県林務部から私に電話があり、伊香保町に治山工事を施工した台帳を作りたいので手伝つてほしいと要請がありました。話の内容は明治、大正、昭和に至る全ての治山工事した箇所を調べることでした。私は冬の期間で隙もありましたので協力することに承諾しました。

二月上旬早速調査員の財団法人林業土木コンサルタントの前橋支所に勤務するYさんがあいさつに来訪して県から調査を請負ったこと、地元で土地勘のある私を紹介されたとい

う、すぐに調査スケジュールを概略立て山合いの沢、谷ごとに踏査することで、二月二十日から三月下旬までを目途に実施することで合意し、山に入る身支度を準備し冬の厳寒のこと、滑べらないようスパイク付の長靴を履いて調査に挑みました。

治山工事箇所ごとの調査、その堰堤が地球の位置を示す作業で米軍の軍事衛星が8個打ち上げられており、その8個から電波を頂いて記録すること。（米軍の許可を得）次にプレート調査（施行年月、請負業者名）したり野帳へ付近の概略図を書き、更に写真を撮る作業であつた。私の気持ちは先ず電波の測



## 地域を担う

(有)藤井木材

反町 昂道

磯村産業(株)

千葉 荘一郎

一 趣味

釣り、旅行

二 今後の抱負

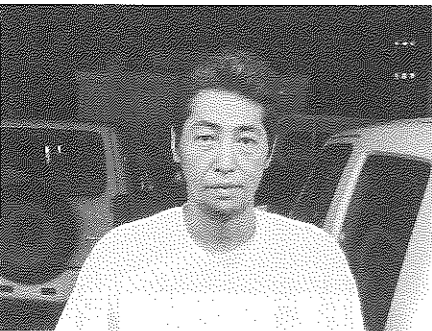
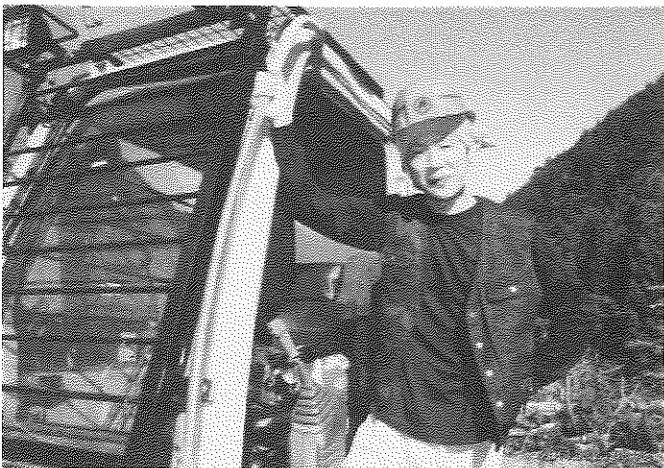
今まで以上に技術を向上させ、事故無く作業に取り組んで行きたいと思えます。

一 趣味

スポーツ全般、映画鑑賞、天体鑑賞

二 今後の抱負

この職業に就いて四年目になりました。フォレストワーカーの三年間で学ばせて戴いた講義と実技を活かして、より正しい判断力を養いながら、自分を含め職場の仲間と共にこれからも安全に心掛け、日々の業務を頑張つて参ります。今後は、重機を使い路網作成などもさせてもらえよう頑張つていきたいとも考えています。



多野東部森林組合

上岡 潤一郎

一 趣味

ヨガ、滝鑑賞、天体観測

二 今後の抱負

体が資本の仕事なので健康に気をつけて、体調管理をしっかりしていこうと思います。20代・30代の人たちに体力で負けないように頑張ります。



多野東部森林組合

西台 雄

一 趣味

ジャグリング、読書

二 今後の抱負

まずは安全第一。技術の向上を目指すと共に、木や動植物の知識も学んでいきたい。森林の持つ様々な機能を高められる山作りが出来るようになりたいです。



多野東部森林組合

林 直幸

一 趣味

自転車

二 今後の抱負

今後は、森林生産班として高性能林業機械を使いこなせるようになり、チェーンソー等の技術においても先輩方に少しでも近づけるように努力し、地域の林業に貢献できるように頑張ります。



(有) 檜原愛林

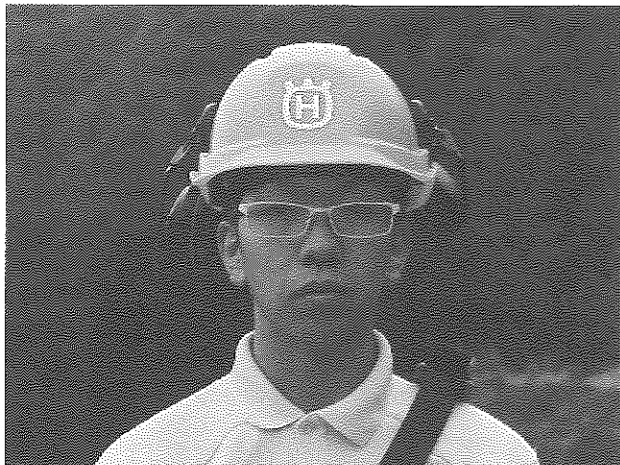
水出 力

一 趣味

ツリークライミング、バイク

二 今後の抱負

林業の世界に入り4年目。現在は造林班の班長という立場で作業しています。しかし、まだわからないことや、知らないことがあります。日々林業の奥深さを感じています。その中で、仲間とのコミュニケーションを取りつつ、円滑で効率的な作業に取り組めるよう精進していきたいと思っています。0災でいこー！よしっ!!



(株) 吉本 上野事業所

高沢 晟那

一 趣味

バイクツーリング

二 今後の抱負

先輩方のように、しっかりとした段取りで、的確かつ迅速な仕事をこなせることを目指していきたいです。



(有) 青木林業

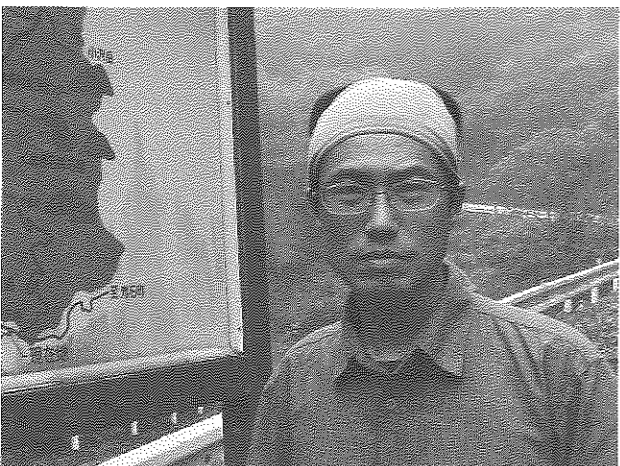
久保 浩平

一 趣味

音楽鑑賞

二 今後の抱負

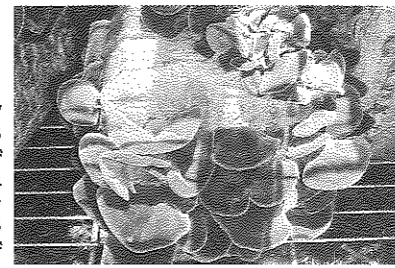
先輩からの指導や工夫を日々重ねることで、着実に上達や自信が実感できる職業だと思っています。疲れない歩き方や、体力が次第に身につく、滑らかに木が切れるようになりたいです。イメージ通りに木を伐倒できて、思わず「うまい」と叫ぶ事が多くなります。これからは、和やかな職場づくりにつとめたいと思います。



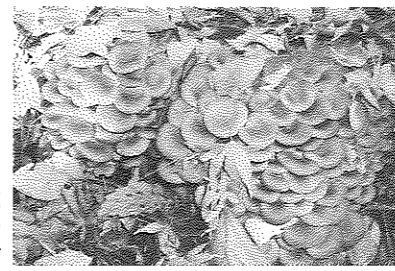
# 里山を活用したきのこ栽培技術の確立

近年利用されなくなった里山が増加し、その保全が危惧されています。また、中山間地域のきのこ生産者には、大企業の市場参入による価格競争やきのこへの放射性セシウム汚染問題があり、経営は厳しい状況にあります。そこで里山を整備活用し、放射性セシウム汚染にも留意して、林内で通年的にきのこを栽培し、里山再生及び中山間地域でのきのこ栽培振興を図るための研究に取り組みました。

本研究は二〇一一年度から二〇一三年度まで三年間行い、栽培したきのこは、夏はアラゲキクラゲ、タモギタケ、秋はハタケシメジ、ヒラタケ、冬はエノキタケでした。



アラゲキクラゲ



ヒラタケ

栽培を行った里山は林業試験場内（北群馬郡榛東村）、高崎市箕郷町内・倉沢町内のスギ林で、計四箇所でした。

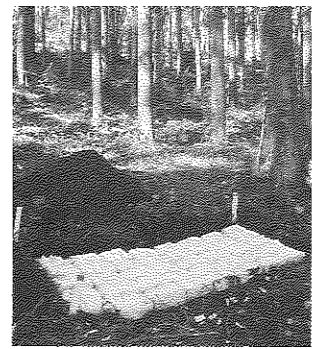
菌床の培養は空調室で行いますが、きのこの発生を里山で行うので、気温や湿度がきのこの生育環境に近く、空調室を使用せずに栽培できます。

この生育環境に近く、空調室を使用せずに栽培できます。

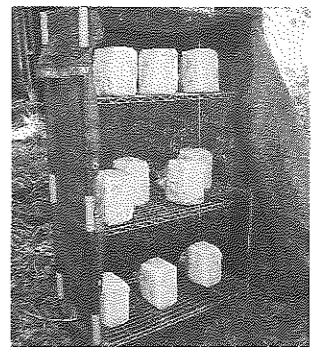
アラゲキクラゲ、タモギタケは林内に棚を設置してそこに菌床を並べました。そして棚のまわりを

寒冷紗で覆い、日射を遮るとともに保湿性を高めまし

た。ハタケシメジ、ヒラタケ、エノキタケは林床に菌床を埋め込み、その上に落葉を被せました。



林床栽培



棚栽培

これらのきのこを連続的に栽培することによって、六月上旬から翌年三月上旬まで五種のきのこを収穫できました。

三年間の栽培で、単年度での一菌床あたりの収穫量は、アラゲキクラゲは約一・〇kg、タモギタケは約〇・六kg、ハタケシメジは約〇・七kg、ヒラタケは約〇・七kg、エノキタケは約〇・六kg程でした。

なかでもアラゲキクラゲは生産者の注目を集めているきのこで、収穫量も多く、単価もシイタケとほぼ同等になっています。そこで春、秋、冬はシイタケ栽培、端境期の夏はアラゲキクラゲの栽培と言うような組み合わせも考えられます。

ただし、これら栽培方法では、菌床への散水が必要なので沢等から水を得られる場所が適しています。

きのこへの放射性セシウムの汚染ですが、前記四箇所のスギ林内での試験では特に対策をしなくても、五種のきのこ全てが食品の基準値一〇〇ベクレル/kgを大きく下回っていました。

しかし、栽培状況等により基準値を超えることも考えられますので、他のきのこ同様放射性物質の検査を受ける必要があります。

林床栽培では、きのこに土や落葉等が付着して異物混入が生じる恐れもありますので市場出荷は難しいと考えられます。そのため農産物直売場等での販売が想定されますが、リング狩りやイチゴ狩りのような観光農園として、きのこ狩りを観光客に提供してみたいかがでしょうか。この場合、土や落葉等の付着もごく自然となります。是非とも栽培をご検討ください。

(林業試験場 きのこ係)

## 平成二十六年年度教育情報講習会を開催

平成二十六年七月十日、渋川市内の塚越屋七兵衛において、森林土木建設業の会員をはじめ関係者約50人が参加し、青木勝環境森林部長、山藤浩一県森林土木建設協会長を来賓にお迎えして、本年度の教育情報講習会を開催しました。

新井和子副会長の開会宣言に続き、星野巳喜雄会長は「この講習会は、県当局の幹部と親しく勉強し懇談できる数少ない機会であり、本日は現下の林政の重要な話をしていただける。有意義な会になるようお願いしたい」と呼びかけました。



あいさつする星野会長

来賓の青木環境森林部長は「森林土木建設業の皆様は中山間地域の振興にご貢献いただいているほか、二月の豪雪の時には大変なご尽力をいただいた。県民の安全安心のために欠かせない役割を担っていることに感謝する」と述べました。

群馬県森林土木建設協会の山藤会長は「昨今は多くの災害が発生しており、山村地域を守るにはハード面での整備が重要であり、県当局には多くの予算を確保していただいているが、基盤整備には長い年月の事業継続が大事だ。本日は最新情報を入手して事業に役立てて欲しい」とあいさつしました。

講習会では、県環境森林部参事で林政課長の松本喜久男氏が「林政課の事業について」、根岸和明林業振興課長が「県産材の利用拡大について」、井田由夫森林保全課長が「治山事業をめぐる話題について」それぞれ講義をいただきました。講義の中で松本課長は県内の林内路網整備について「まだまだ十分でない中、本年度で開設が完了する林道が5路線もあり、市町村の財政状況も厳しく新規開設が進まないが、企画・計画に努力していきたい」と説明しました。

最後に星野会長から講話がありました。「今回のテーマは、群馬にゆかりの女性の活躍とNHK大河ドラマについてで、新島襄の妻を主人公にした13年の『八重の桜』、来年

15年の本県初代県令楢取素彦の二番目の妻で、吉田松陰の妹・文を描く『花燃ゆ』に続き、16年には沼田や吾妻地方ゆかりの真田幸村を描く『真田丸』が決まったことの報告があり、さらに、富岡製糸場絹遺産群の世界遺産に絡んで、片品村で蚕の病気を治す『いぶし飼い』を考案した永井紺周郎、いと夫婦の紹介もありました。

いづれの講義、講話も大変興味深い内容で、最後まで熱心に耳を傾け聞き入っていました。

おかげさまで、今年の講習会も大勢の参加をいただき、にぎやかに開催できました。お忙しい中ご講義いただいた講師の方々に改めて感謝申し上げます。



あいさつする山藤森林土木建設協会長